

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4590100261
法人名	(有) サカイコーポレーション
事業所名	グループホーム くるみ
所在地	宮崎市佐土原町下那珂字下ノ山2962番6 (電話) 0985-73-2711
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 20 年 12 月 1 日

【情報提供票より】(20年11月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 6.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	0 円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(11月13日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	2 名		
年齢	平均 85 歳	最低 73 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人善仁会、山村内科、さいとう病院、宮永内科クリニック、郡司眼科医院、郡司歯科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宮崎市の郊外で、住宅や農家が点在する静かで緑の多い恵まれた環境の中にホームは立地している。開設して間もないホームであるが、地域の中で笑顔の介護を目標に、施設長を中心にケアに対する熱い思いで心のこもった暖かいケアが実践されている。運営推進会議も軌道にのり、家族会も定期的に開催、ホーム便りは2か月に1回写真入で発行している。又、地域内のグループホームと相互に現場研修を行う等サービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。利用者は優しく思いやりのある職員に支えられ、表情が明るく全員元気で安心して生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	平成20年3月の開設で今回が初めての外部評価となる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初めての外部評価となったが、職員会議や毎日のミーティングで評価の目的や意義を全員で話し合い、評価の一連の過程を通してサービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、地域の代表、家族会の代表等が参加して2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や夏祭の相談、避難訓練の実施方法等を話し合い、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	苦情・相談ポスト等を設置し、家族等の意見や苦情を表せる機会づくりに努めているがまだ充分な成果が出ていない。現在、介護相談員の受け入れや家族会を活用した機会づくり等を検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティアの受け入れや地区の民生委員の訪問等、地域との交流に努めているがまだ充分とはいえない。現在、自治会への加入や地域の人達が立寄ったり、遊びに来てもらえる関係づくりに取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中でその人らしい暮らしと、人格を尊重し、笑顔で安心して生活できる介護…」を理念に地域生活の継続支援を目標にした独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、職員会議等で理念について掘り下げて話し合いケアに活かす努力をしている。又、施設の要所に理念を掲示して、全員が共有できるように日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの受け入れや地区の民生委員の訪問等地域との交流に努めている。自治会への加入や地域行事等への参加はまだである。	○	地域住民の一員として、自治会への加入の検討や近隣の人達が気軽に立ち寄ったり、遊びに来たりする関係をこれから築いてほしい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての自己評価となったが、職員会議や毎日のミーティングで評価の意義や目的を全員で話し合い、評価の一連の過程を通してサービスの質の向上に前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域の代表、家族会の代表等が参加し、2か月に1回開催している。会議では運営状況の報告や夏祭りの相談、避難訓練の実施方法等を話し合い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市の介護長寿課を定期的に訪問し、運営状況の報告や懸案事項についての相談を行う等交流を深めている。又、市が開催する研修会や説明会には積極的に参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族にはホーム便り(くるみ通信)を2か月に1回発行し、利用者の暮らしぶりやボランティアの活動状況、夏祭りの風景等写真入りで詳しく報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情・相談ポストを設置したり、家族会を設け意見を表せる機会づくりに努力しているが、まだ充分とはいえない。	○	現在検討している介護相談員の受け入れや家族会等を活用して、意見や不満が出しやすい雰囲気づくりを工夫してほしい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の離職や異動を最小限に抑える努力をしている。現状では離職も少なく利用者との馴染みの関係が築かれている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加させている。又、月に1回ホーム内でミニ勉強会を開いたり、他のグループホームと職員が相互に現場研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や介護支援専門員連絡協議会に毎回参加して、勉強会や情報交換を行い交流を深めている。又、他のグループホームと相互訪問を行いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に職員が自宅や施設に何度も訪問し、不安なことや希望を聞いたり、ホームを見学してもらう等徐々にホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に過ごしながらか、利用者の特技や趣味、料理等を教えてもらい、お互いの信頼関係を築きながらか共に支えあう関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の日々の行動や会話の中から思いや希望を把握出来るように努めている。又、家族や関係者からの情報も活用している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、関係者と充分話し合い、気づきや意見、アイデアを反映した利用者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、介護計画は利用者や家族の希望や意向を採り入れ、3か月に1回定期的に見直しを実施している。又、状況の変化が見られる場合は随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や外泊、外出等の支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にそって、これまでのかかりつけ医を基本としている。又、月1回の往診もあり気軽に相談や受診が出来る関係が築かれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期のあり方については、利用開始時に本人や家族、かかりつけ医と話し合い、書面で意向を確認している。又、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用開始時に、本人や家族とプライバシーの配慮について話し合いを行っており、利用者の誇りを損ねるような言葉かけがないように細心の注意をしている。又個人情報の漏洩防止にも取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりが自分のペースで楽しくゆっくり過ごせるように、その日の体調や希望にそって、食事時間や入浴時間、趣味、運動等を調整し柔軟に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや希望に配慮し、旬の食材を採り入れた食卓を囲んで、利用者と職員が同じ料理を楽しく食事をしている。又、一緒に食事の準備や後片付けをしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回としているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。又、夏場はシャワー浴を採り入れ、利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日、食事の準備や後片付、掃除、洗濯物たたみ、編物、ゲーム等、日々喜びのある生活が出来るよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩や近くの神社に参拝する等、出来るだけ戸外に出かけるように努めているが、日常的な外出が少ない。		その日の天気や希望に応じて、日常的な散歩や買物、たまにはドライブ、外食等出来るだけ多く戸外に出かけられるよう支援をしてほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や居室には鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、地元消防団の協力を得て避難訓練、消防訓練を行っている。防災マニュアルも作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分摂取量は職員がおおよそ把握しており、利用者の好みや希望を採り入れたバランスの良い食事の内容となっている。職員の中に栄養士がいて専門的な観点からもチェックを行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木を基調とした造りで、採光に配慮した全体的に余裕のある明るい家庭的な雰囲気となっている。リビングルームの南の窓からは、緑豊かな農村風景が眺められ、利用者はゆったりと居心地よく暮らしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはタンス、椅子、カレンダー、写真、使い慣れた日用品等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		